

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年十月度 入選句（投稿総数二千八百九十六句・小中学投句数二千三百十四句）

### 特選

選者 遠藤 幹郎

星月夜 ピアノのれんだんひびき合う 大垣市 牛田 温斗(小五)

「星月夜」(秋の季語)は、月のない星の明るい夜のことをいいます。作者は、ピアノの演奏会を聴きに行ったのでしよう。演奏会が終わって会場を出て、空を見ると秋の空気の澄んだ夜空には無数の星が輝いています。ピアノの連弾奏者の息の合ったすばらしい演奏の余韻が、星月夜の美しさにひびき合い満足感に浸りながら家路へ向かったのでしよう。

ヒガンバナ 炎のように咲きほこる 大垣市 木村 育代(小六)

「炎のように咲きほこる」が、効いています。秋の彼岸の頃、田の畦や土手などに真つ赤な花がまさに燃えるように咲いたのは壯観です。そのようすを「炎のように」という“たとえ”表現と、得意げにいつぱい咲いている意の「咲きほこる」という表現とともに、対象をよく見て、そのようすを見事に詠い上げています。

さんま 焼くけむりの中のお母さん 大垣市 河合 清翔(小四)

ガスコンロの上で、さんまをお母さんが焼いているのでしよう。油のつた新鮮なさんまからは、けむりが勢いよく立ちのぼっているのでしよう。まるで、お母さんがそのけむりに取りまかれていくようだ。と作者は見たのです。「けむりの中のお母さん」という表現が効いた一句です。以前は、七輪(土で出来たコンロ)に炭火を起して焼いたものです。

### 秀逸

君と見た花火はやみにちっついていく 美濃加茂市 夏田 桐弥(中三)

虫の音は心に響く協奏曲 美濃加茂市 松井 颯太(中三)

長い夜得した気分本閉じる 美濃加茂市 渡辺 留妃(中三)

でっかいなへちまがぐんぐん伸びている 大垣市 上原 裕斗(小四)

目がいたむほどにきれいな秋夕焼 大垣市 金森 公佑(小四)

くりごはんわたしのえがおこぼれだす 大垣市 上野 真麻(小五)

晴天の夜の空にはスーパームーン 大垣市 竹中 晴(小六)

さんぽ道足元てらすひがんばな 大垣市 西本 多恵(小六)

どنگりのみちができたらうれしいな 大垣市 仲村 渠 涼太(小二)

いいかおりふりかえったら金もくせい 大垣市 森 奏 翔(小二)

入選

体育祭優勝ねらってだんけつだ 美濃加茂市 堀部 未奈(中三)  
 体育祭空まで届け応援歌 美濃加茂市 服部 琴葉(中三)  
 あかとんぼゆうひとともにおどってる 大垣市 川瀬 凜珠(小三)  
 ホウセンカさわってみたらたねがとぶ 大垣市 ひらの あかり(小三)  
 かまきりがいかくぼううずでおどかすよ 大垣市 しの田 ふうき(小三)  
 動物もえさをあつめて冬支度 大垣市 近藤 秀介(小四)  
 びつしりと実をつけている山の柿 大垣市 石井 愛大(小四)  
 紅葉さん私のほほと同じ色 大垣市 岡田 真依(小四)  
 母さんといっしょに作る栗きんとん 大垣市 石井 好誠(小四)  
 手をのばすそつと両手でぶどうがり 大垣市 星野 凌空(小四)

入選

ハロウィンだおぼけかぼちやがうごきだす 大垣市 山田 いお(小四)  
 風をよびゆらゆらゆれるすすきのほ 大垣市 松村 智嘉(小四)  
 黒ぶどう最後ひとつぶ妹に 大垣市 新居 蒼太(小四)  
 せいくらベコスモスたちがきそいあい 大垣市 深山 琴悠(小五)  
 栗のいが頭上に落ちてさけぶぼく 大垣市 織田 真頭(小五)  
 とれたてのまつたけごはんいいにおい 大垣市 赤尾 世楽(小五)  
 衣替え制服のそで下ろす母 大垣市 森田 悠斗(小六)  
 どんぐりがぼうしかぶっておしゃれする 大垣市 富田 美咲(小六)  
 ゆらゆらと長いぶんこみの虫さん 大垣市 おんだ かなこ(小二)  
 おつきさまはやくまんまるなってくれ 大垣市 宗宮 彩巴(小二)

選者吟

養老の孝子の墓や木の実落つ

幹郎